

標 題 : The Mediterranean diet :  
Effects on proteins that mediate fatty acid metabolism in the colon  
地中海食事 : 結腸における脂肪酸代謝を介在するタンパク質に対する影響

---

著 者 : Zora Djuric (米国 ミシガン大学 地域医療・環境健康学部)

---

掲 載 誌 : Nutr. Reviews 69(12): 730-744 (2011)

---

要 旨 : 地中海食事は人の健康の多くの領域で健康的な有効性が見られ、その抗炎症作用によって介在されるようである。

脂肪酸の代謝およびその後のエイコサノイド生成が、地中海食事が抗炎症作用を発揮できる重要なメカニズムである。

エイコサノイドつまりプロスタグランジンおよびロイコトリエンのシクロオキシゲナーゼおよびリポキシゲナーゼ依存性生成で、食事脂肪酸および脂肪酸代謝が脂肪酸の供給を決める。

地中海食事の食事介入研究および観察研究で、脂肪酸の血中値は食事摂取を反映するが弱められている。

しかし、脂肪酸値の小さな相違は、特に長期間にわたって摂取する場合に重要と思われる。

この総説は、ギリシャ式地中海食事からの脂肪摂取がどのように脂肪酸を代謝するタンパク質に影響するか、炎症促進性エイコサノイドの生成を導く代謝経路を強調して予想できることを要約する。

この経路に関与するタンパク質は、プロテオミクス手法を用いる研究の機が熟しており、結腸癌予防の目標となる可能性がある。

---